

2021年度 緑が丘こひつじ保育園 事業報告

1. 園の概要

(1) 基本情報

- ①園の名称：緑が丘こひつじ保育園
 ②住 所：八千代市緑が丘西1丁目10番5
 電話番号：047-409-3939 Fax番号：047-409-3955
 ホームページアドレス：<http://www.ainosono.or.jp/kohitsuji>

(2) 在籍園児の状況（月別・クラス別） 2021年度 在籍園児数年間人数集計表

	5歳	4歳	3歳	幼児計	2歳	1歳	0歳	乳児計	合計	割合
4月	5	10	17	32	11	10	9	30	62	103%
5月	5	10	17	32	11	10	9	30	62	103%
6月	4	10	17	31	11	10	9	30	61	102%
7月	4	10	17	31	11	10	9	30	61	102%
8月	4	10	17	31	12	10	9	31	62	103%
9月	4	10	17	31	12	10	9	31	62	103%
10月	4	10	17	31	11	10	9	30	61	102%
11月	4	11	17	32	11	10	9	30	62	103%
12月	5	11	17	33	11	10	9	30	63	105%
1月	5	11	17	33	11	10	9	30	63	105%
2月	4	11	17	32	11	10	9	30	62	103%
3月	4	11	17	32	11	9	9	29	61	102%
合計	52	125	204	381	134	119	108	361	742	103%

(3) 定員充足率（毎年度 3月末現在）

2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
103%	86%			

※緑が丘地区は人口増加中で、人口に比例して待機児童もいますが、昨年の待機児童の内訳は48人中0歳児が0人、2歳児42人、その他若干となっています。今後の動向を注視する必要があります。

(4) 職員の概要

○常勤職員

園長 1名
 主任保育士 0名
 保育士 8名
 栄養士 1名
 事務員 1名
 看護師 1名
 調理師 1名
 一時預かり 1名
 14名

○非常勤職員

保育士 6名
 調理補助 1名
 時間外従事者 3名
 10名

○委託医

委託内科医 1名
 委託歯科医 1名

2. 事業の概要

(1) 「地域子育て支援への取り組み」

八千代緑が丘は東京都心への西の玄関口となっているため、若い世代が増加傾向にある。町を行き交う方々は小さな子ども連れのご夫婦が多だけに、子育て支援への取り組みは緑が丘地域では、赤ちゃん広場、遊びと交流の場（出前広場合）、妊娠期事業、親学級支援事業等も活発で、地域情報交換会もなされ、中高生に向けての支援等、かなり充実している。一方、一時預かり事業を継続してみても、本当に地域に今必要なものが明確になっている。開設1年目で一時預かりは年間267名から45名増えて、2年目はコロナ禍の中で2ヶ月間は中止したにもかかわらず312名になっている。しかも申し込みのあった半数しか受け入れられていない状態。様々な活動は、地域協力団体や母子保健推進員の活躍に頼り、一時預かりをもっと広げていくことが必要と考える。

一時預かりへの取り組み 実施回数

月	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
4月	0	0	0	6	0	9	0	0	0	0	0	0
5月	0	3	0	19	0	18	0	0	0	0	0	0
6月	0	3	3	18	3	22	1	0	3	0	0	0
7月	0	2	11	16	10	24	0	0	3	0	0	0
8月	5	0	22	0	11	24	3	0	1	0	0	0
9月	7	0	27	0	12	19	0	0	0	0	0	0
10月	7	3	18	7	15	24	0	0	0	0	0	3
11月	3	6	18	6	15	15	0	0	0	0	0	9
12月	4	3	12	9	4	16	0	0	0	0	0	0
1月	2	1	13	12	5	15	0	0	0	0	0	0
2月	1	0	7	0	6	0	0	0	0	0	0	0
3月	1	0	8	0	6	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	21	139	83	87	186	4	0	7	0	0	12

又、お預かり出来なかった子ども達のために、親子が簡単に楽しく遊べるようにWEB配信を年4回行った。これらの子育て支援への取り組みは同時に入園希望にも大きく影響した。

WEB配信「こひつじ」

回数	月日	目標と内容
第1回	2021年6月	<u>梅雨期も楽しく過ごそう！</u> 牛乳パックを使用して、カエル製作！♪カエルの歌♪をパパとママと合唱も楽しいね。輪ゴムを使うとピヨーンと高くとびます。家族でヨーイドン！どっちがとぶかな？
第2回	2021年10月	<u>ひんやり！楽しいスライム作り！</u>

		まだまだ冷たい感触で遊びたい季節。スライム作りをして遊ぼう。のびるスライムに、笑い声が聞こえてくるようなおもしろい遊びの紹介です。
第3回	2021年12月	<u>草遊びと木の実で何作ろう！</u> 松ぼっくりやどんぐりを使って遊びます。木の実探しの楽しい散歩にかけよう。いろんなものが出来ましたね。
第4回	2022年2月	<u>保育園のオモチャ紹介</u> みたくて遊びの盛んな乳児期。保育園は色々なものにみたくて遊べるように、チェーンやタッパ、様々な図形やペットボトルの色水等。えっ？と驚くような様々なオモチャになるものの紹介をします。お家にあるもので遊べますね。

(2)職員の研修と育成に関する方針

新規開設園であることや、パート勤務経験から正職員で採用された職員が入退職が多かったにもかかわらず、保育面では小さな積み重ねの足跡がついてきている。今後、職員が定着し、保育の質が高められていくための労働環境整備については概ね改善されてきた。年間休日120日の実施はクリアし、年間有給休暇もほぼ100%消化できている。これは職員の大半が入職前はパート勤務者だったことで、時間で行動することに慣れている良い面とも言える。子育て中の職員も多いので、年休や休憩時間、事務時間に対する要望も強いことから、事務時間の内容把握に努めている。どれだけの量があり、どれだけの事務時間が必要なのか職員一人ひとりのペースはどうか、改善点はないかを把握して、適正な事務時間の確保をしっかりと取っていけるようにしたい。

職員研修と育成については日々の時間で上手く時間を積み重ねることで、保育の質を高めていけると考える。時間の使い方として・・・

- ①沢山の議題をまとめて話し合うことは無理なので、短時間で一つの議題に取り組む。
- ②保育士が揃わなくても、園長がクラス訪問をして、保育相談にのって話し合いの不足に対応していくことを継続する。
- ③姉妹園での研修や、園内研修の取り組みで、少人数でも可能な研修時間を回数多く増やし、振り返りを大切に、それに対する声かけと承認の機会を増やす。
- ④キャリアパス研修への全員参加を目指す
- ⑤研修検討委員会で作成した「不適切な保育のチェックリスト」の活用等で、自らの保育を学期毎に振り返り、保育に生かす。

詳細は事業計画の通りであるが、これらの点を強調して今後も職場の研修と育成に取り組んでいきたい。

(3)中長期的な計画（人事・保育・施設・財務等）及び事業計画の進捗達成状況

人事

人事については、開園まもないことから当面は法人の歴史と保育理念の理解が大切で、少しずつ保育目標を理解することで自信につながってくると思われる。職員確保のための費用が多く収支にも影響が出ており、保育士の定着、育成、離職防止が重点課題である。その上での施策としては・・・

- ①短時パート1名を常勤職員に、秋口から予定
- ②産休職員の育休付与と職場復帰への話し合い
- ③実習生への応募働きかけ
- ④就職説明会等、養成校へのアピールとハローワークへの求人
- ⑤ホームページとSNSによる募集（デジタル委員会との連携）
- ⑥状況によっては秋口までの新聞折込

上記の早い対応を考えています。

保育

現在「質の高い保育とは」という職員の共有理解が曖昧で、新設園ならではの背景として様々な職場から集まってきた職員で保育を作り上げていく段階にある。こうしたことから感染症や事故、アレルギー対応や園外保育、清掃の仕方まで安全で細やかな内容に及んだマニュアルを作成。引き続きマニュアルを継続利用していく。

保育の仕方については色々な保育士の保育を見て学び、考え合う研修を継続していくことが必要と考える。又、法人内の研修検討委員会で作成した保育のチェックリストの活用をしながら保育の振り返りと充実を図っていく。

保護者の意見も反映させた保育園としての歩みをしていく為に「保護者会」立ち上げに向けて保護者へのアンケートを実施。今年はその準備としての学級懇談会をスタートさせた。保護者支援を考えつつ、軌道にのせていく。

施設

新園舎の綺麗さを保つように園内清掃には気を配っている。特別な園内の修繕箇所はないが、園庭のさらなる整備は必要。園児数も増加し、狭い園庭の遊び場である築山は遊び尽くされて、手直ししてもすぐに崩れることから早急な根本的修繕が必要。草木を増やし自然が感じられる園庭の環境は予算と園庭の広さを見ながら継続していく。定員60名に対して保育所入所定員の弾力化で120%までの72名を受け入れたが、ホールや園庭の面積が思っていたよりも狭い印象で十分な運動量を提供できない状態にあります。又、職員の休憩場所や一時預かり室についても検討を重ねていく必要がある。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
流動資産	11,547,858	11,539,547			
固定資産	221,101,296	233,846,026			
資産の部合計	232,649,154	245,385,573			
流動負債	16,332,314	16,980,613			
固定負債	28,054,910	29,601,410			
負債の部合計	44,387,224	46,582,023			
基本金	0	0			
国庫補助金等特別積立金	146,290,703	155,021,132			
その他の積立金	0	0			
次期繰越活動増減差額	41,881,227	43,782,418			
純資産の部合計	188,171,930	198,803,550			
負債及び純資産の部合計	232,559,154	245,385,573			

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

勘定科目		2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
事業活動による収支	収入					
	保育事業収入	118,281,593	109,887,043			
	借入金利息補助金収入	0	0			
	経常経費寄付金収益	26,500	100,001			
	受取利息配当金収入	59	60			
	その他の収入	1,469,430	1,699,058			
	事業活動収入計	119,777,582	111,686,162			
	支出					
	人件費支出	86,107,116	81,129,537			
	事業費支出	10,071,086	9,862,620			
事務費支出	14,496,121	15,389,044				
支払利息支出	64,520	22,781				
その他の支出	1,181,590	1,445,650				
事業活動支出計	111,920,433	107,849,632				

事業活動資金収支差額	7,857,149	3,836,530			
------------	-----------	-----------	--	--	--

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

勘定科目		2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
施設整備等による収支	施設整備等補助金収入	0	871,000			
	設備資金借入金収入	0	0			
	その他の施設整備等による収入	0	0			
	施設整備等収入計	0	871,000			
	設備資金借入金元金償還金支出	2,124,000	972,000			
	固定資産取得支出		1,022,221			
施設整備等支出計	2,124,000	1,994,221				
施設整備等資金収支差額		△ 2,124,000	△ 1,123,221			
その他の活動による収支	積立資産取崩収入	0	0			
	拠点区分間繰入金収入	0	0			
	その他の活動収入計	0	0			
	積立資産支出	593,500	344,375			
	拠点区分間繰入金支出	4,102,334	0			
	その他の活動支出計	4,695,834	344,375			
その他の活動資金収支差額		△ 4,695,834	△ 344,375			
当期資金収支差額合計		1,037,315	2,368,934			
前期末支払資金残高		2,355,229	0			
当期末支払資金残高		3,392,544	2,368,934			

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

勘定科目		2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
サービス活動増減の部	保育事業収益	118,281,593	109,887,043			
	経常経費寄附金収益	26,500	100,001			
	その他の収益	0	14,840			
	サービス活動収益計	118,308,093	110,001,884			
	人件費	87,157,616	87,159,912			
	事業費	10,071,086	9,862,620			
	事務費	14,496,121	15,389,044			
減価償却費	13,322,230	13,223,644				
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 8,730,429	△ 8,633,458				
サービス活動費用計	116,316,624	117,001,762				
サービス活動増減差額		1,991,469	△ 6,999,878			
サービス活動外増減の部	受取利息配当金収益	59	60			
	その他のサービス活動外収益	1,469,430	1,684,218			
	サービス活動外収益計	1,469,489	1,684,278			
	支払利息	64,520	22,781			
	その他のサービス活動外費用	1,181,590	1,445,650			
	サービス活動外費用計	1,246,110	1,468,431			
サービス活動外増減差額		223,379	215,847			

経常増減差額		2,214,848	△ 6,784,031		
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	0	871,000	
		拠点区分間繰入金収益	0	0	
		拠点区分間固定資産移管収益	0	50,566,449	
		その他の特別収益	0	0	
	費用	固定資産売却損・処分損	0	0	
		国庫補助金等特別積立金積立額	0	871,000	
		拠点区分間繰入金費用	4,102,334	0	
		拠点区分間固定資産移管費用	0	0	
	特別増減差額	△ 4,102,334	50,566,449		
	当期活動増減差額	△ 1,887,486	43,782,418		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	43,768,713	0		
	当期末繰越活動増減差額	41,881,227	43,782,418		
	基本金取崩額	0	0		
	その他の積立金取崩額	0	0		
	その他の積立金積立額	0	0		
	次期繰越活動増減差額	41,881,227	43,782,418		

④財務比率の経年比較

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
経常増減差額率	1.9%	△ 6.2%			
流動比率	70.7%	68.0%			
純資産比率	80.9%	81.0%			
固定長期適合率	102.3%	102.4%			
借入金償還余裕率	27.9%	25.9%			
事業活動資産収支差額	6.6%	3.4%			
人件費比率	73.7%	79.2%			
事業費比率	8.5%	9.0%			
事務費比率	12.3%	14.0%			

(2)その他

①借入金の状況

借入先	期首残高	当期償還額	差引期末残高	利率 (%)	償還期限
(独) 福祉医療機構	29,028,000	2,124,000	26,904,000	0.230	2034.11

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対策

1 収益性について

経常増減差額率 (経常増減差額+サービス活動収益計×100)

前年度△6.2%から1.9%とプラスに転じた。園児数が約10名増加したこと、一時預かり保育事業の交付額の増額、処遇改善臨時特例事業等により委託費収入等が増えたことによる。一方で主任保育士の退職後、採用するも2名の辞退があり、補充が出来なかった為、加配による補助金収入が減額となった。

2 短期安定性について [流動比率 (流動資産+流動負債×100)]

短期的な支払能力を見る上では200%が望ましいとのことだが、100%を下回っている。今期から拠点区分間繰入費用が発生していることも上げられるが、より安定性を高めるためにも職員の確保、定着に努め紹介料の負担を減らしたい。

3 長期持続性について [固定長期適合率 (固定資産+ (純資産+固定負債) ×100)]
低い方がよいとされている固定長期適合率が100%を超えている状態である。15年の借入金返済が始まってまだ1年5ヶ月、土地賃料も永続的に発生するが、新設園のため純資産比率は高く、借入金償還余裕率は27.9%と低めであることから長期持続性は問題ないとする。

4 資金繰りについて [借入金償還余裕率 (借入金元利払額+事業活動資金収支差額×100)]
[事業活動資金収支差額 (事業活動資金収支差額+事業活動収入計×100)]
事業活動資金収支差額はプラスだが、6.6%とやや低めであるが、来期は加配による補助金収入が見込まれていることから、もう少し安定すると思われる。

5 合理性について [人件費率 (人件費+サービス活動収益計×100)]
人件費率は66%程度がよいとされているが、昨年度より5.5ポイント改善した。福祉医療機構によるH29年度の保育所平均は72.5%のため、さほど平均と変わらない値である。効率のよい合理的な職員配置に努めたい。

6 事務費率、事業費率 ((事務費) ・ (事業費) +サービス活動収益計×100)
昨年度は初年度により備品の購入に経費がかかったため、今期は購入を控え、節約を心掛けた。しかし初年度は退職者が多かった為に、紹介会社を使わざるを得ず事務費を抑えることが難しかった。事務費を抑えて本来の事業費 (給食費、保育材料費等) に充てていきたい。

今後の課題

開設2年目の園児数は定員を1名上回り、委託費収入は順調に得られている。しかしながら今年度も周辺に新規小規模 (市内46園目が予定) ができることや、認可園の定員数が大幅に増やされている園もある。引き続き八千代市の待機児童の0歳児は0で、入園が決定してもコロナ感染症の心配から入園を躊躇し、キャンセルが相次いでいる状態が続く。0歳児が安心して入園できる環境を作りつつ、年度初めから0歳児の定員を満たせるように情報を集めていくことが必要。

2022年度は2名の障がい児担当職員の配置が可能になったことから、職員の加配による補助金収入の増額が見込まれている。適切な職員配置を行い、職員の負担も減らしながら定着化に繋がるような風通しのよい職場環境にしていきたい。

また今後、食材、光熱費等の高騰により一層の工夫が求められるため、給食室と連携をとって、いかに質を落とさずに美味しい給食を提供できるかが課題である。